

の混乱<sup>こんらん</sup>、新政府<sup>しんせいふ</sup>からだされるいろいろな命令<sup>めいれい</sup>などで、今まで、数百年の間平穩<sup>へいおん</sup>に暮らしたこの山村も、かつてない目まぐるしい暮らしをおくることになりました。

### 野尻<sup>のじり</sup>、大芦村<sup>おおあし たんじょう</sup>の誕生

それまで野尻組といわれていた9つの村は、明治22年（1889年）の国のきまり（市町村制）にそって、野尻村（小中津川村，下中津川村，野尻村，松山村）と、大芦村（大芦村，両原村，喰丸村，佐倉村，小野川村）の2カ村となりました。このころの村の人びとの仕事は、ほとんどが農業で、わずかに木地<sup>きじ</sup>や木炭<sup>もくたん</sup>の生産<sup>さん</sup>にたずさわる人がいたということです。

また、その頃<sup>ころ</sup>から村外<sup>でかせ</sup>への出稼ぎが多く、野尻村では98名、大芦村で75名<sup>どちぎけん</sup>が栃木県<sup>とちぎけん</sup>へ行っているという記録<sup>きろく</sup>が残<sup>のこ</sup>されています。

学校の制度も大きく改め<sup>あらた</sup>られ、小学校<sup>じんしやう</sup>は尋常<sup>じんじやう</sup>と高等<sup>こうとう</sup>に分けられ、それぞれ4年間ずつとされました（小学校令<sup>れい</sup>）。そして、尋常科はすべての国民<sup>みん</sup>が学ぶこととされました（義務制<sup>ぎむせい</sup>）。喰丸<sup>くいまる</sup>、大芦小学校が新築<sup>しん</sup>され、下中津川小学校も明治29年（1896年）に建てられています。明治34年（1901年）には、下中津川小学校の分校だった野尻小学校も独立<sup>どくりつ</sup>し、校舎<sup>こうしゃ</sup>が建てられました。しかし、両村ともに高等科までは手がまわらず、もっと勉強<sup>けんぎやう</sup>したい人は、川口村<sup>かわぐち</sup>（現金山町<sup>しんるい</sup>）まで親類<sup>しんるい</sup>や知人<sup>ちよ</sup>を頼<sup>たよ</sup>って行かなければならなかったのです。この不便<sup>ふべん</sup>さは新しい昭和村<sup>しやわむら</sup>が誕生するまでつづくこととなります。

### 昭和村の誕生

野尻村、大芦村として、それぞれ別々に歩<sup>あゆ</sup>んできた両村<sup>りやうむら</sup>に、合併<sup>がっぺい</sup>の考え<sup>お</sup>方が起<sup>おこ</sup>きてきました。それは、学校<sup>がっこう</sup>にかかる村<sup>むら</sup>の経費<sup>けいひ</sup>を減<sup>へ</sup>らすこ